

# 未来1

# 「もくもく」に描く未来

「もくもく」の未来をどう描き行動していくのか。過去から引き継いできたものを未来に生かすため、若者たちが思い描く「もくもく」の未来の形。

津山で生まれ育ち、現在は地元で会社を経営しています。私が子ども頃は、今に比べて人口が多く、もくもくランドでのイベントもたくさん開催されていました。高校生の時に、もくもくランドで開催された「24時間フリーマーケット」に合わせ、友人たちとパーベキューをしたのは良い思い出です。

今は「もくもく」を訪れる人も減り、前ほどイベントは開催されていません。そのせいか、地域の一体感が少なくなつたように感じています。もくもくランドは木製の大型遊具があり、家族で楽しめる場所。ここを中心に交流人口が増えればもくもく地域も活気づくのではないでしょう。津山といえればやっぱりもくもくランド。この場所を中心に、地元の人

## 地域一体で活気を取り戻したい

たちが一体感を持ち、昔のような活気を取り戻していきたいですね。



津山町横山4区在住  
1982年生まれ  
熊谷 哲弥さん

高校卒業までを登米市で過ごし、現在は仙台にある登米市物産直売所でスタッフとして働きながら、大学で非常勤職員をしています。

## 登米市のシンボルとなる存在に

近な存在でした。出荷の合間に、よく弟と木製遊具で遊んだ記憶があります。

津山にある実家では「産直・ときめき野菜」に野菜を出荷しているのですが、もくもくランドは幼い頃から身



津山町入沢出身  
1996年生まれ  
佐々木 悠里さん

す。もくもくランドで開催されていたイベントは、地元からの参加者も多く、地域のまとまりやにぎわいが感じられました。イベントは減りましたが、今でももくもくランドは地域の交流の場だと思っています。若い人もお年寄りも立ち寄れる地域活性の場として、今後とももくもくランドがあり続けるとうれしいですね。津山はもちろん、登米市のシンボルとして復旧・復興できることを願っています。

## 復旧・復興に向けて連携地域の意見をどう聞くか

東北工業大学は合併前の津山町と古くから関わりがありましたが、2018年12月にあらためて登米市と当大学が連携協定を締結しました。

地域の資源を活用した活性化や地場産業の持続的な再生などの面で取り組みを進めることにしており、もくもくランドの復旧・復興もその一つ。これまで市やもくもくランドの関係者と話し合いを重ねてきましたが、これからはもくもく地域の意見を聞くべきだと思っています。地域が同じ方向を向き、理想的な在り方について共通の認識を持つことが重要です。



東北工業大学  
地域のくらし共創デザイン  
研究所  
伊藤 美由紀 所長

## お店がなくならないか心配木の製品を知ってもらって

もくもくランドで働いている親戚から、昨年の台風の大雨でお店が水浸しになって大変だったという話や、今は水に漬からずに無事だったところにお店を移動して、木の製品を売っていると聞きました。

お店がなくなってしまうのではないかと心配です。もくもくランドには野菜などを買いに行くことがあるので、なくなると絶対困ります。

もくもくランドで売っているコップや食器などの木の製品をみんなに知ってもらって、お客さんがいっぱい来てくれるようになれば、お店もなくならないと思います。



柳津小学校5年  
亀井 遥斗くん

もくもくランドには、買い物に行くこともあるし、休みの日に友達と集まってアスレチック遊具で遊ぶこともあります。駄菓子コーナーでおやつを買ったり、たこ焼きやソフトクリームをみんなで食べたりするのも楽しいです。

津山町は林業が盛んな所で、木を伐採して使ったら、将来のためにまた木を植えることを、学校の授業で学びました。もくもくランドに小さい子から大人までもっとたくさんの方が集まるように、植えた木が大きくなったら、その木を使って遊具を作ってほしいです。

## 授業で林業の仕組みを学習木が育ったら遊具に使う



横山小学校6年  
堀田 望空さん

授業で木工品の作り方を「もくもく」の良さ伝えたい。中学1年の「技術」の授業で、木の皿を作りました。四角い板に鉛筆で自分が作りたい大きさの円を書き、職人さんと一緒に機械で削りました。四角を丸くする作業が難しかったです。機械で削った後は自分たちでヤスリをかけニスを塗って完成。木の皿は、家でお客さんが来た時にお菓子などを載せて使っています。

もくもくランドには、木のぬくもりが感じられる物がたくさんあります。2年生の総合的な学習の時間でPRポスターを作成しました。たくさんの方に「もくもく」の良さを伝えていきたいと思っています。



津山中学校2年  
熊谷 潤奈さん

## 「もくもく」の復旧・復興みんなで考えること必要

市では、もくもくランドの被災前から、売り上げが落ち込んでいる産直コーナーをどのように立ち直らせるのかをテーマに、関係者で話し合いを重ねてきました。現在は、もくもくランドの復旧・復興の方向性について話し合いをしています。主なメンバーは、もくもくランドの指定管理者の協同組合もくもくランド、県、そして地域振興などの連携協定を結んでいる東北工業大学です。

もくもくランドは市の施設ですが、大切なことは市が一方的に事業を進めるのではなく、多くの人からさまざまな声をしっかり聞き、市民の皆さんと事業を進めていくことです。これまででは、もくもくランドに近い関係者間の話し合いでした。今後は地域の若い人を含めた市民、そして外部も含めた多様な意見を聞きながら、もくもくランドの将来についてみんなで考え、動いていくことが大切です。



産業経済部  
地域ビジネス支援課  
小野寺 純 係長

## 木工製作通じ地域愛育む



津山中学校  
千坂 佳織 校長

津山中学校では地域の産業を学ぶため、授業に木工製作を取り入れています。木工職人を講師にしたその取り組みは何十年にも及びます。

以前は、ふるさと教育の一環で全校生徒を対象に木工芸品を製作していましたが、現在では「総合的な学習」の時間を使い、1年生の教科学習の「技術」で木工製作をしています。

この授業は津山町ならではのものです。中学生のうちに地場産業に触れることで、地域の誇りや愛着を育む良い取り組みだと感じています。



職人と一緒に、機械を使って木を削り皿を作る生徒たち。皿は文化発表会で展示